OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Association of Green Tea Consumption and the Risk of Liver Cancer Incidence among Japanese Adults
Author(s)	船橋, 王博
Citation	大阪大学, 2026, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/106988
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

論　文　内　容　の　要　旨
Synopsis of Thesis

氏　　名 Name	船橋 王博
論文題名 Title	Association of Green Tea Consumption and the Risk of Liver Cancer Incidence among Japanese Adults（緑茶摂取と日本人成人における肝がん罹患リスクの関連）

論文内容の要旨

〔目　的(Objective)〕

本研究は、日本人成人を対象とした大規模前向きコホート研究において、特に高頻度の緑茶摂取と肝がん発症リスクとの関連を明らかにすることを目的とした。これまでの研究では結果が一貫しておらず、とりわけ日常的な緑茶高摂取に着目した検討については、十分に検討がされていない。

〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕

Japan Collaborative Cohort（JACC）Studyのデータを用い、ベースライン時に肝がん既往のない40～79歳の男女41,999人を対象とした。緑茶摂取量は質問票により評価し、「0-1杯/日」「2-4杯/日」「5-6杯/日」「7杯以上/日」の4群に分類した。追跡期間中の肝がん発症をアウトカムとし、Cox比例ハザードモデルを用いてハザード比（HR）および95%信頼区間（CI）を算出した。解析では年齢、性別、地域、教育歴、既往歴、Body Mass Index、飲酒・喫煙習慣、コーヒー摂取、身体活動などの交絡因子を調整した。

中央値17.8年の追跡期間中に251例の肝がんが発生した。緑茶摂取量の増加に伴い肝がんリスクは低下する傾向を示し、特に7杯以上/日の高摂取群では、基準群（0-1杯/日）と比較して有意なリスク低下が認められた（HR=0.61, 95%CI: 0.40-0.95、傾向検定 p=0.029）。また、この関連は男性、肝疾患既往のない者、および現在飲酒者においてより強く観察されたが、いずれも交互作用は統計学的に有意ではなかった。

〔総　括(Conclusion)〕

本研究により、日本人成人において日常的な緑茶摂取頻度と肝がん発症リスクは有意な負の関連が示された。特に、1日7杯以上の高頻度摂取において、明確な肝がん予防につながる可能性が示唆された。

[Format-H07]

論文審査の結果の要旨及び担当者

（申請者氏名）　船橋 王博

	（職）	氏　名	
論文審査担当者	主　査　大阪大学教授		署名
	副　査　大阪大学教授		署名
	副　査　大阪大学教授		署名

論文審査の結果の要旨

本研究は日本人成人を対象とした大規模前向きコホート研究Japan Collaborative Cohort（JACC）Studyを用いて、特に高頻度の緑茶摂取と肝がん発症リスクとの関連を明らかにすることを目的としたものである。従来の研究では扱ってこなかった日常的な緑茶高摂取群に着目した点は興味深い。結果として、特に、1日7杯以上の高頻度摂取において、肝がん予防につながる可能性が示唆された。これらの知見は、肝がんの改変可能な要因として、特にアジア地域におけるお茶の飲料習慣と肝がんの関係を深めたという意味で重要な所見であり、博士（医学）の学位授与に値する。